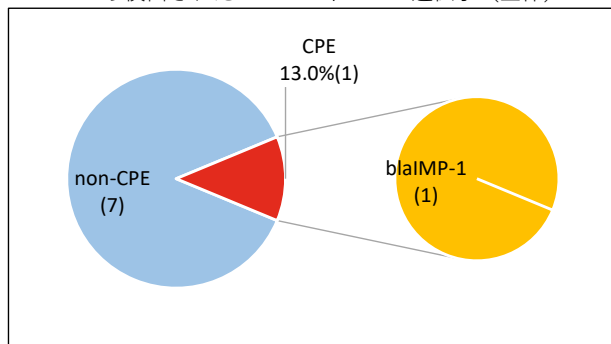


2017年（4月～12月）カルバペネマーゼ遺伝子保有状況

県内におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（CRE）の届出数は9件で、そのうち搬入されたCRE8件について、検査を実施しました。

・CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（全体）

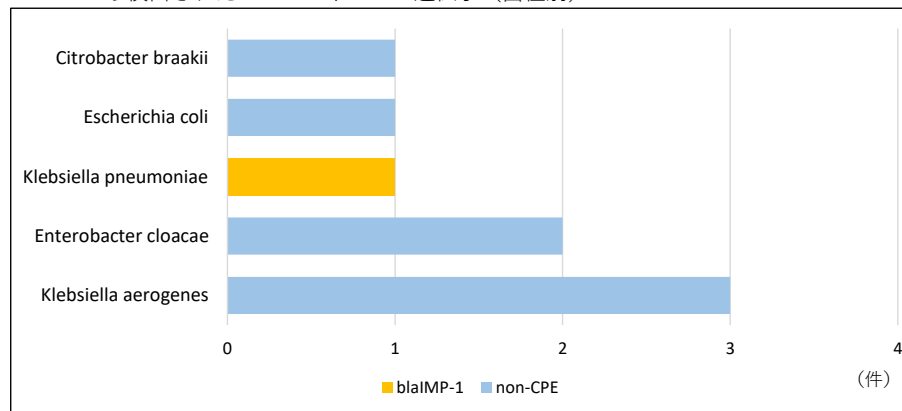


CRE：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌

CPE：カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌

non-CPE：カルバペネマーゼ非産生腸内細菌科細菌

・CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（菌種別）



全国におけるCRE検出状況

出典：IASR Vol.39 p162-163:2018年9月号 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/dr-b-m/dr-b-iasrd/8332-463d02.html>)

- ・2017年第1～52週の届出数は1660例であり、そのうち病原体サーベイランスとしてシステムに登録されたものは865株[※]であった。
- ・上位6菌種は、*Klebsiella aerogenes*（32%）、*Enterobacter cloacae*（29%）、*Klebsiella pneumoniae*（12%）、*Escherichia coli*（10%）、*Serratia marcescens*（5%）、*Citrobacter freundii*（3%）であった。
- ・865株のうち、カルバペネマーゼ遺伝子陽性株は239株（28%）であった。
カルバペネマーゼ遺伝子型の内訳は、IMP型が227株で最も多く、主に海外で多く分離されているNDM型は8株、KPC型は3株、OXA-48型は2株であった。
- ・IMP型陽性株の上位3菌種は、*E.cloacae*（33%）、*K.pneumoniae*（26%）、*E.coli*（20%）であった。

※保菌例など臨床的な届出基準を満たさない患者由来株が一部含まれる可能性がある